

Human

## 養成研修を担当して

久留米養成研修チーム

長友 博愛 (ながとも ひろえ)



### これまでの経歴

私は平成7年4月に都城で採用されました。令和4年4月からは久留米養成研修チームへ配属され、久留米養成研修課程を担当しています。これまでは庶務係と会計係しか経験したことがなかったので養成研修の業務が務まるか不安でした。しかし周りの方々に助けをいただき、何とか初めて担当した研修生を今年の3月に送り出すことができました。

### 研修生について

久留米養成研修課程は、昭和22年8月に農林省農業技術研究所園芸部見習生制度として開始し今年で77年目、1,842名もの修了生を送り出しています。

現在の研修生は今年入所した4名と2年生2名のあわせて6名が、イチゴと施設野菜を学んでいます。入所する研修生は減少傾向にあり定員割れが続いていますが、今年の研修生は18歳から40歳までと年齢層も広く、やる気のある研修生ばかりなので、とても活気があります。研修終了後の進路状況について、以前は公務員やJAへ就職する者もあったようですが、近年は9割以上が就農または農業法人等へ就職しています。

### 業務内容

研修生はそれぞれ目標・目的があり久留米養成研修課程へやって来ます。親の後を継ぎ経営者を

目指す者、新規就農を目指す者、親の農業経営とは別に新たな部門を開始する者など様々なので、研修終了後に希望どおりの就農や就職ができるよう研修生の希望を常に確認しながら講義計画を立てています。立てた計画は養成研修チームだけでは実行できません。拠点内の研究者や業務科職員の協力を得るのは勿論ですが、講義によっては他拠点の研究者や農政局、普及センター、JA、大学、税務署、研修生OBなどに出張講義をお願いしています。時には他拠点や他組織、民間企業等へお邪魔して現地で講義していただくので、色々な方の協力を得ながら講義計画を実行しています。

### 知識や技術習得の他に

今後は徐々にコロナ禍以前の生活に戻ると思われるので、研修生には積極的に先輩や後輩、そして職員とコミュニケーションを取っていただきたいです。そして、信頼できる仲間を作り、研修終了後も気軽に相談できるような関係を職員と築いていただきたいと思います。



▲研修生たちとのホームルームの様子